

# 海からのメッセージ

## ～ 仲間とつくる 最高の夏～

- 趣 旨 鹿児島湾（錦江湾）を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより、海の良さを知り、「生きる力」を育む。また、長期冒険型活動を通して心に悩みをもつ青少年の自立を支援する。
- 期 日 令和2年8月9日（日）～15日（土） 6泊7日
- 参加対象 小学5・6年生、中学生、高校生（心に悩みをもつ児童・生徒を含む。）
- 募集定員 24人
- 参加者 24人（小学生16人・中学生7人・高校生1人）
- 指導者 外部指導員4人 国立大隅青少年自然の家7人 ボランティア8人
- 日 程

期日	移動先・内容等	宿泊場所	移動距離
8月9日	新城海の家周辺（カヌーの練習）	自然の家	5 km
8月10日	自然の家本館（交流活動、スポーツ活動）		10 km
8月11日	宮脇公園周辺（カヌーの練習、カヌー活動）	新城海の家	15 km
8月12日	海洋スポーツセンター周辺（海洋スポーツ体験）		10km
8月13日	荒平天神周辺（カヌー活動、お参り）		15 km
8月14日	海潟さくら公園周辺（カヌー活動、遠距離漕破）		5km
8月15日	新城海の家周辺（振り返り、ネクストチャレンジ宣言）		

### 8 事業の企画・運営

- (1) 昨年度までは複数の宿泊地を移動していたこともあり、食事の準備等を参加者以外が実施していた。今年度は宿泊場所を新城海の家に固定し、かつ移動距離時間を調整することで、参加者自身に食事の準備を始めとした生活体験を行う時間を多く取り入れた。
- (2) 感染症対策として、テント宿泊時の密を避けるため、一人用テントでの宿泊とした。
- (3) 申込方法を往復はがきによる申込から、インターネットによる申込に変更することで、申込者の利便性の向上を図った。
- (4) 職員及び外部指導員による、全ルートの実地踏査を実施し、危険箇所の確認を行った。
- (5) 参加者のカヌー活動中は、監視艇及び救助艇の計3艇を常に帯同・監視することで、参加者の安全面に十分配慮した。
- (6) 鹿屋市、垂水市、関係機関（海上保安部、漁業協同組合、警察署、消防署、病院）に事業実施における情報共有を行うことで、緊急時の対応の事前準備を行った。

## 9 事業の実際

1日目は陸上でカヌーを漕ぐ練習を行った。天候不良により、実際にカヌーに乗った練習はできなかったが、その中でも熱中症を考慮し、海に入って練習を行えた点は良かった。

2日目も天候不良により、本館で室内での活動を行った。その中で、遊びリンピックやスポーツクライミングを行うことで、班での交流が増え、参加者の緊張を解かせることができた。

3日目からは海でのカヌー活動を行った。1, 2日目の天候不良も考慮し、行程を変更して、海でのカヌーの練習を行ってから宮脇公園への往復のカヌー活動を実施した。定期的に休憩・水分補給をとらせるなど熱中症対策を行った。

4日目は、連携先である鹿屋体育大学の海洋スポーツセンターでの海上スポーツ体験として、スタンドアップパドルを行った。また、磯観察ではさまざまな生き物を見つけ、活動に熱中していた。海洋スポーツセンターでの体験活動にしたことで、カヌーが苦手な参加者も海の良さ・素晴らしさをより感じる事ができた有意義なプログラムとなった。

5日目は、荒平天神までの往復のカヌー活動を行った。行程が長距離であったことから、途中で船酔いをする参加者が見られた。体力的に厳しい中でも互いに声をかけながら、活動に取り組んでいた。また、歌を歌いながら楽しく活動に取り組む参加者も見られた。

6日目は、海潟さくら公園までの往復のカヌー活動を行った。最長距離の行程であったこともあり、途中で痛みや疲労により、救助艇でえい航する場面も見られたが、参加者の最後まで諦めない姿、励まし合う姿が見られた。その結果、参加者24人全員が最長距離である16kmを漕破ることができた。

7日目は、これまでの活動を振り返り、「これから自分がチャレンジすること」を考えさせ、グループ内で発表させる活動を行った。参加者が熱意をもって、事業で感じたこと、まじめに考えたこと、それぞれの目標を発表する姿が見られた。



10 アンケート結果（参加者 I KRアンケート）

**「生きる力」の変容（得点範囲：28～168点）**

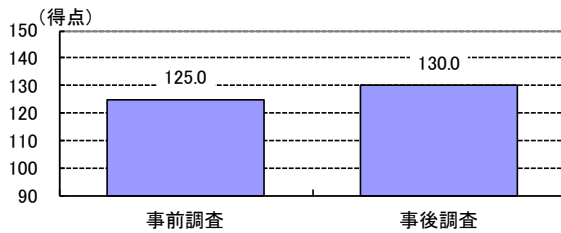


図1. 「生きる力」の平均値の推移

**（事前－事後）**

- ・事前から事後にかけて 5.0ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかったが、以下カテゴリ毎に、ポイントの上昇が見られた設問について示す。

**「心理的社会的能力」の変容（得点範囲：14～84点）**

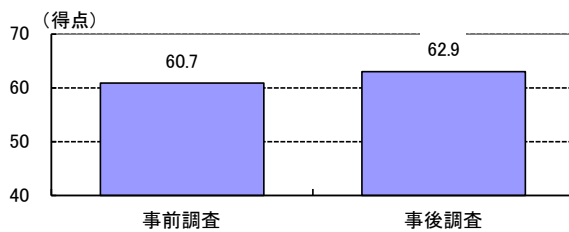


図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

**（事前－事後）**

- ・事前から事後にかけて 2.2ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかったが、「3. 先を見通して、自分で計画を立てられる」「17. 自分で問題点や課題を見つけることができる」「15. 小さな失敗をおそれない」など「非依存・視野・判断」の項目にて、ポイントの上昇が見られた。

**「徳育的能力」の変容（得点範囲：8～48点）**

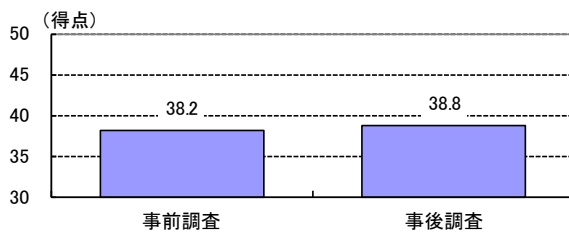


図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

**（事前－事後）**

- ・事前から事後にかけて 0.6ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかったが、「6. 花や風景などの美しいものに、感動できる」など「自然への関心」の項目にて、ポイントの上昇が見られた。

**「身体的能力」の変容（得点範囲：6～36点）**

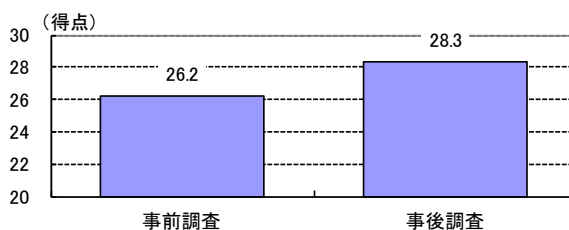


図4. 「身体的能力」の平均値の推移

**（事前－事後）**

- ・事前から事後にかけて 2.1ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた。その中でも「13. 早寝早起きである」「24. 洗濯機がなくても、手で洗濯できる」など「日常的行動力・野外技能・生活」の項目にて、ポイントの上昇が見られた。

「身体的能力」の変容に有意差が見られた。これは、日常生活に必要な洗濯・食事などの活動を参加者自身で毎日実施したことにより、参加者の日常的行動力や野外技能・生活技能が向上したと考えられる。また、「心理的社会的能力」の項目においても、本事業の活動の大半を占める海での長距離のカヌー活動により、挑戦する心が養われたと考えられる。

## 11 参加者の事業後の感想

- いろいろな料理の仕方を覚えたので家族に作ってあげたい。
- 僕はこれから親の手伝いをし、困っている友達がいたら自分から積極的に声をかけてあげようと思いました。
- 毎日体力づくりをする（カヌーを漕いでいて、体力が無いことを思い知らされた）。
- 皿洗いは毎朝やる。すぐにカッとなって怒らない。人のことより自分のことからする。
- 海洋スポーツセンターでサップを初めて経験しました。初めて知ることがたくさんあって、すごく楽しい体験ができました。
- 今回の目標は「気配り、目配りができるようになる」だった。みんなから見てどうかわからないけど、私なりに頑張れたと思うから1週間は満足できるものになった
- 今年が初めてで不安だったけど、やさしい仲間がいたので少し心強かった。
- みんななどのお別れはさびしいけど、少しだけ家の温かみを感じることができる7日間だった。
- この班は静かだったり騒がしかったり、いろいろとあったけどこの班で良かった。またこの班で何かやりたい。
- 最初は男女別に行動していたけど、この7日間で話をしたり、活動をして男子女子仲良くなれた。本当に来てよかった。
- この海メセで仲間と協力することが大切だと気付いた。
- いろいろなことを学んだ。例えば1つ辛いことに挑戦して乗り越えると、すごく達成感があり、チャレンジして良かったと思うことです。
- 2日連続でダウンしたけど、班のみんなが手伝ってくれたりしたから、1週間頑張れた気がする。本当にこの班で良かったと思った。
- 班長として頑張ったつもりだけどうまくいかない日もあった。でも班の子たちが協力してくれてとてもうれしかった。

## 12 成果

- 今年度は、カヌーによる挑戦だけでなく、食事の準備・洗濯等の生活体験を取り入れた結果、参加者の野外技能・生活技能の向上に繋がった。
- 感染症対策として、テント泊に一人用テントを使用したことが、保護者の参加に対する不安軽減に繋がった。
- 宿泊拠点を新城海の家に固定することで、食事・洗濯等の実施における運営側の負担が軽減され、参加者の体調管理や安全対策を十分に行うことができた。